

1、あいさつ (河原崎教育長)

本日もご参加いただきましてありがとうございます。4月から子どもたちが、ここまで成長してきたのは、地域・PTA・学校の先生など、皆様方のおかげだと感謝を申し上げます。

今日から教育委員会では、市内の小中学校に2回めの学校訪問を行っている。校長先生から今年度の反省や来年度への抱負等を伺った。お話を伺っていて、来年度が楽しみだという気持ちになった。事務局でも来年度について考えている。意欲をもって取り組んでいる。次に何をやるかと思うことが大事だと思っている。また来年度、皆様の力を借り、子どもたちがまた一段と成長してくれたらと思っている。

去年の秋から冬ぐらいの間に、幾つかのことが報道等で知らされた。

- ・12月初め、PISAの調査の読解力が急落したという報告。
- ・運動能力調査の小中学生の体力の急低下。子どもの視力が最悪になったという記事。
- ・10月下旬には、子どもたちの問題行動の数値で、小学校低学年の暴力行為が増えている。

というような記事があった。私のちょっと偏った見方かもしれないが、繋がっていると思う。

その新聞記事を読んでいくと、スマホとかそういうものが関連しているのではないかとということが1~2行必ず出ている。今、私たちが取り組んでいるスマホの関係が全てとは言わないが、何らかの形で影響していて、それぞれが繋がっているような気がしている。

今年度から私たちは新たな取り組みを行ったわけだが、それが今の子どもたちがもっている課題に関係している。それが全てとは言わないが、子どもたちがいい方に向かっていく方策の一つになるのではないと思う。なかなか特効薬はない。地道にやるしかないと思う。お任せにしない・人に押しつけない。私たちのことなので、私たちでやっていくしかないと思う。こういう機会も大事だと思うので、情報交換をし、かかわり合いながら、小さなことでもいいので、実行していただければ有難いと思っている。今日は、来年に繋がるような内容になっているので、宜しくお願い致します。

2、会長あいさつ (浜岡中学校区会長)

11月17日に講演会が行われた。大変いい講話だったと感じた。自分なりに考えさせられる内容だった。

参加者はけっして多くはなかったが、この問題は100%の特効薬はないので、継続して行うということが大切ではないか。来年以降も継続してこのような講演会ができれば・・と思う。

本日は、次年度の取り組みについての協議がある。皆様方の忌憚のない御意見を宜しくお願い致します。

3、学校教育課より報告

(1) 11月17日の青少年未来をつむぐ集いの講演会について (長谷川学校教育課長)

講演会参加者数は220名位。CATV・ちらしの全校配布・メールの一斉配信等を行った。人を集める難しさを感じた。講演会の内容については、興味をもつ内容だったし、90分だったが、まだまだ聞きたい内容があったと思う。今井教授は、御前崎がこういう風に取り組んでいるということは嬉しいことだし、大事なことなので全面的に協力してくれるとのこと。浜中・御中・第一小から今井教授を呼んで欲しいという声が上がっていた。東小も。今井教授はスケジュールを調整してくれるとのこと。浜中は、来年度、参観会の日に全生徒・全保護者対象とのこと。来年度実現したいことも、このあと話し合っていたきたい。

(2) 11月23日の大産業祭出店状況について

浜中ボランティア11名が参加。

朝食レシピ・・・421名がシールを貼ってくれた。スーパーボール掘りも行った。

(3) 全国体力テスト（体力と朝食・睡眠・ゲームの関係）について

・全国体力調査の結果

小学生は、全体的に全国平均より上。昨年より下がっているもの・・・有り。

中学生2年男子は、全国平均より4つ上回っている。昨年と比べると、ほぼ全滅という感じ。

中学生2年女子は、全国平均より上回ったものは2つ。体力的には、かなり良くなかった。

・朝食調べについて・・・小5と中2

小5女子については、毎日食べるという項目については、全国平均より2ポイント上回っている。

小5男子・中2男女については、取り組んできたことがあまり数値に表れていない。朝食を食べることについては、中2は、かなり悪い数値で残念。今後、どう取り組んでいくかを考えさせられた。

・『テレビ・DVD・ゲーム機・スマホ・パソコンなどの画面視聴時間と体力合計点との関連』について

小5女子以外は、ものすごく悪い。小学校5年生で5時間以上やる子は26.4%。5時間やる時間はどこにあるのだろうかと思われる中で、5時間やっている。3時間以上テレビやゲームをやっている子は、ほぼ60%近い。全国・県よりかなり低い。何か手を打つ必要がある。

・睡眠について

すごくよく寝ている・ちゃんと寝ているということ。

ゲームをやる時間が長くて、寝る時間が多い・・・いつ勉強しているのか。

中2男子『テレビ・DVD・ゲーム機・スマホ・パソコンなどの画面視聴時間』が長い子ほど体力も点数も良くない。『テレビ・DVD・ゲーム機・スマホ・パソコンなどの画面視聴時間』が、平均の線よりも上回っているという結果。中学校2年生の女子『1時間未満・1～2時間』の子の体力は、良い。

今、取り組んでいる『早寝早起き朝ごはん』とか『ゲーム障害・ネット依存』についても考えなくてはいけないということが、体力テストの結果からも浮き彫りになってきている。本日の会は、今年度の取り組みを振り返りながら、次年度に繋げる会と思っている。3月のスクラムスクール運営協議会の時には、来年度の方向性を出せたらと思っている。

4、協議（グループ別協議：中学校区（含 池高）・小学校区ごと）

御小学区

(1) 講演会について

とても良かった。参考になった。親子で聞いて親子で話し合う場にできたらよかった。足を運び難くだったので、近くの園や学校で行うのがいいのではないかな。

(2) 本年度の成果と課題について

小学校ではアンケートをとったり、PTAの実践目標にしたりした。

各家庭の情報を共有できたり、ゲーム1時間というのが32%という結果も出たりした。意識が向上した。

園・田島指導主事のミニ講演会を実施。意識をもつ・ルール作り・ルールを守る等のきっかけになった。
御小・・・生活リズムチェックカードを使い、親子で共有することもやっている。

(3) 次年度の取り組みについて

親子で聞ける講演会を。情報モラル講演会を全校に広げて取り組む。来年度の役員さんと相談。今年度の取り組みを更に発展させてやっていきたい。

大事なのは親同士のルールの共有ではないか。親同士でのルール作り。

○疑問：今の子どもたちは、将来、自己管理能力がない子どもになってしまうのか。この先、大人になったらどうになってしまうのか。

白小学区

(1) 講演会について

かなりショックを受ける内容だった。人数が少なかったので多くの人に伝えたい。聞いた後、すぐに対策をした人がいた。

(2) 本年度の成果と課題について

成果：運営協議会が一つの方向を向いたということが大きな成果。ママ友の中でも、ネット依存という言葉が浸透していった。園や学校の教職員の意識も高まってきている。

課題：多くの人に広めたい。『ゲーム障害・ネット依存』という言葉は入ってくるが、何をしたらいいのかという人が多い。

(3) 次年度の取り組みについて

ひとつの家庭だけでは解決できない問題。自分たちもチームで対応していかなくてはいけない。

講演会・・・園・小・保合同で。『より多くの人が集まってくれる講演会のもち方の工夫』と『行きたくなるための情報発信』を。

第一小学区

(2) 本年度の成果と課題について

課題：参加者が少なかった。聞いて欲しい保護者の参加がまだまだ少ない。先生や他の役員さんにも聞いてもらいたかった。自由参加だと弱い。行事の重なりを事前に調整を。

成果：問題意識が高まってきている。専門家の話が聞けて参考になった。

危機感の具体がみえた。時間の使い方とか行動の変化ができた。伝えたい対象がはっきりしてきた。

(3) 次年度の取り組みについて

第一小：親子での講演会やワークを繰り返しやってきている。PTA役員や教職員が他地区の学校等の講演会に参加することで、広まっていくのではないかと。

園：降園前のミニ講話や親子で学べる機会を。学校・園便りを更に工夫。許可が取れば、講演会の動画を撮って『まおまお』で流すことができれば、市民に広がるのではないかと。できるだけ自分達でも話して広める方法を。

東小学区

(1) 講演会について

とても聞きやすかった。具体的で危機感を感じた。映像に引き込まれた。入場者が少なく残念だった。声かけの工夫を。衝撃的だった。来なかった人に伝えたかった。

(2) 本年度の成果と課題 (3) 次年度の取り組みについて

東小とさくら子ども園合同で今井教授の講演会を計画。保護者は、話を聞くと感じてくれる。小学生にも聞かせたい。保護者に危機感を。年1回の講演会だけでなく、保護者が繰り返し学べる場を。ポイントを伝えられるといいのだが・・・。声かけは、直の声かけを。強制的にでもやってみる場を作ることが大事。

北小学区

(1) 講演会について

反響が大きかった。・・・ブルーライトカットの設定をした。貸し出している『ネット依存の本』の申し込み数が増加した。

(2) 本年度の成果と課題について

学校だよりで、スマホの影響の大きさ等を度々広報した。

(3) 次年度の取り組みについて

- ・懇談会で保護者にスマホやゲームとの付き合い方や脳への影響等についての情報を提供していきたい。
EX: スマホ川柳等で広報。脳への影響のちらしを配布しながら、考えてもらうような場にしたい。
- ・北こ・・・親子がふれあえる遊び・ゲーム(トランプ・すごろく・カードなど)を貸し出す。卒園の時に要らなくなった玩具を寄付していったらどうか。
- ・今井教授の講演会をやりたい。今、検討中。

地頭方小

(1) 講演会について

具体的でわかりやすく、聞きやすかった。身近に感じた。ネット依存の怖さを改めて感じた。親も子も知る必要あり。検討を開始した。

(2) 本年度の成果と課題について

まだ十分取り組めていない。幼保小中連携して、一貫して、どの年代でも同じテーマを意識して取り組むことがいいことだ。

園の眼科健診で、『スマホ・ゲームで視力低下がみられた子がいたこと』を保護者に伝えることができた。園便りでも伝えてきた。スマホは重要なツールであるけれども、どこまで踏み込んで指導していくか、難しさを感じている。

(3) 次年度の取り組みについて

情報モラル教育を確実に進める。御中講演会へ小・幼・保も参加できたらいいと思う。
スマホの使い方をきっかけにして『親子のコミュニケーションの充実』を考えていきたい。調査の段階で、親子のふれあいの時間等の調査をしてもらえるといいのでは・・・。

中学校区・池高

(1) 講演会について

内容が衝撃的で、デジタルタトゥーや斜視等いい内容だった。危険性・怖さ・リスクをどのように知らせていくか、どのように伝えていくか。自己管理能力をつけていくことが大切。

専門家の話を継続的に聞く機会が必要。生徒対象に講話をやってきたが、効果は?!と問われると、難しいところがある。あまり深く考えていない現状がある。

(3) 次年度の取り組みについて

浜中・・・来年度、生徒と保護者対象に今井教授の講演会を計画。まずは、知ることが大切。知ることからスタートして、その後、どのように向かい合っていくか。今回は、保護者対象の講演会だったが、子どもたちが聞いてどんな感想をもつかに興味がある。来年度以降も講演会を継続していきたい。

池高・・・スマホを利用して、アプリでドリルをやるということをしている。スマホをどう利用していくか。使い方を探っていけたらと思っている。

地域代表

(1) 講演会について

市の行事だから、行事の調整をしっかりと。

今井教授の講話が凄く良かったから、やって良かった。人が少なく課題点も見つかったが、やらなかったらみんなで共有できなかった。話を聞く価値があるということがわかった。来年、講演会をやる機会があったら、動員をかけてでも実施することも必要では・・・。

浜中が子どもと保護者と一緒になってやるということは、すばらしいこと。地域でも広めていくので、地域代表にも案内を欲しい。また、市内でこういう話のできる人材育成を。

どんな教育環境を御前崎で作っていくかが大事。もっと大きな『めあて』を掲げ共有していくことが大事。

(3) 次年度の取り組みについて

子どもがルールを作って、親も作っていけるといい。

5、指導・助言 静岡大学 中村先生

大変充実した話し合いがどのグループでもできていて、御前崎の将来は明るいと感じた。

教育長さんから PISA の結果があまりよしくなかったというお話。具体的には、読解力が非常に低かったというお話があった。このことと 11 月に行われた講演会の内容とは、深くかかわっていると思う。

PISA・・・2018 年が最新版。2000 年から 3 年ごとに実施。国際学習到達度調査、2018 年には、79 ヶ国地域が参加。非常に大規模な調査。15 歳、義務教育が終わった年齢の子どもが受けている。国際比較をすることで、日本の課題とか、世界との比較の中で何がみえてくるかを文部科学省も、私たちも参考にしている。結果が公表されるのは 1 年後なので、2018 年版が最新になっている。

試験の形態が 3 つの領域（科学的リテラシー・数学的リテラシー・読解力）に分かれている。この 3 つの領域が 3 年ごとにどう変化するかということを見ていくという調査。79 カ国参加している中で、今回は、15 位。

高い。科学的リテラシー・数学的リテラシーは高い。ほぼトップクラス。読解力だけなぜこんなに低いのか。なぜそれが、ネット・スマホ依存とどうかかわっているのかということ、PISA は、調査をするだけでなく、アンケート調査など様々な調査と組み合わせて分析している。その中で、ゲーム・スマホ等を使うことに関する調査をやっている。やっている中で、今回明らかになったことがいくつかあった。端的にまとめてしまうと

『4 時間以上、学校以外でインターネットを利用するグループの子どもたちは、端的にいうと成績が低い』
本日の資料の『学校以外で 1 日にどのくらいの時間、テレビ・DVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか』という調査。課長からは、5 時間以上に注目してお話があった。これも結構多いが、PISA の観点によると 3 時間以上になっているので、黄色い部分を含めて考える必要がある。どのくらい低いかというのは、これからちょっと分析が必要。

学力低下は、ゲーム依存という非常に衝撃的な内容以外にも、学校以外でどの程度使っているかということが、結構大きな割合でかかわっているということが今回のデータからも分かったということ。

日本の子どもたちは、どんなふうにスマートフォンを使って、他の国の子どもと比べて何に使っているのだろうかということが多分、問題。他の国と比べて2つ高い数値がある。ひとつはゲーム。もうひとつがチャット。SNSでのやりとり。これが他の国と比べると高いというのが結果から出ている。この傾向がこの先どうなるかは、私たちの努力にかかっているのかなというような気もするが、今の時点では、この先、もし読解力を高くしていき、かつ、数学や理科みたいなものの学力をキープしていくとなると、やはり対策をする必要があるというのが PISA の結果からも出ているのではないかと。皆さんが今日話し合われたことは、学力とか生活の質みたいなことの基準に直結する近々のテーマになっていたということが言えるのではないかと。

もう一点。スマートフォンを使うということに意味がある・情報通信機器を使うことに意味がある。そのことと依存という問題がどうかかわるかということがどのグループでも話し合われていた。デジタル機器を使うことが大事だといわれているが、使えない人たちが結構いる。大学生でも、メールを見ることができない学生がいる。スマートフォンをあんなにさわっているのに、メールチェックをすることができない学生がいる。ちゃんと見ることができる学生もいる。デジタル機器をちゃんと使える層と使えない層がある。ロジカルなステップを踏んで設定していくと、メールが受信できるようになるけれども、メール受信の方法を教えてもこのロジカルなステップが踏めないという人達がいる。凄く使える人と凄く苦手な層に2極分化している。情報通信機器に関する格差がある。デジタルデバイド。情報格差と情報通信機器にかかわる格差。使える人というのは、パソコンやスマートフォンとかも操作が非常に得意な層で、就職しやすい。デジタル機器に関する企業の数が増えつつあるという社会状況の中で、非常に就職しやすい。一方、苦手な子たちはそこになかなかコミットできない。この差がどんどんこの先拡大していくのではないかとということを私はちょっと危惧している。遮断すればいいという話ではない。問題はもう一つあって、使った上でどう使えるか。これをちょっと考える必要がある。文部科学省も認識していて、『学校にパソコンを1人1台導入しましょう』みたいな話が出てくるのは、そういう背景がある。ここも少し考えなくてはいけないところで、いろいろな調査があるけれども、情報通信機器にかかわる格差みたいなものが非常に深刻化しているということを頭の片隅に置いておくと、来年度の活動だとか今年度振り返るときに、少し役に立つという気もした。

6、連絡

- (1) 第6回 3月5日(木) 19:00 御前崎市文化会館 2階 大会議室
- (2) 次年度 PTA 会長・保護者会会長の出席をお願いします。